

世界平和を願うパネル展

『「勇気の人 杉原千畝」助けられた命のメッセージ』開催

本日5日、杉並区立中央図書館(荻窪3-40-23)では、杉原千畝の功績とビザを発給したことで救われた世界中の人々のメッセージを紹介するパネル展が始まりました。中央図書館では、平成26年2月、アンネ・フランクの関連本の切り裂き事件が発生。国内外から、世界の恒久平和を願うメッセージとともに、アンネに関する書籍の寄贈を受けました。こうした平和を願う多くの人々の思いを広く知らしめるためパネル展を開催しました。パネル展は、8月31日まで。期間中の8月18日は休館。

平成26年2月、杉並区では、アンネ・フランクの記述のある書籍の引き裂き被害が、区立図書館13館中11館で確認され、被害冊数は121冊にのぼりました。この被害については、近隣自治体の被害とともに、多くのメディアにより世界中で配信されました。すると、オランダのアンネ・フランク財団をはじめ、国内外の人々から平和を願うメッセージが寄せられるとともに、アンネ・フランクの関連書籍が中央図書館に届けられました。

杉並区は、昭和63年3月に「杉並区平和都市宣言」を制定しました。その杉並で、こうしたユダヤ人を標的にした被害が起きたことは残念でなりません。そこで、中央図書館では、被害が起きた平成26年から、毎年8月にアンネ・フランクに関連したパネル展を開催して、平和の大切さを伝えてきました。

今回は、アンネ・フランクと同じ時代を生きた杉原千畝にスポットを当てました。杉原千畝は、本国の命令に背いてナチス・ドイツの迫害を受け、ポーランドからリトアニアに逃げてきた人にビザを発給した人物です。ビザの発給を受けた6000人あまりのポーランド人は、日本を経由してアメリカやカナダに渡ることができました。その一方、ヨーロッパに残った多くのユダヤ人は、ナチス・ドイツの迫害を受け亡くなりました。



パネル展は、NPO法人ホロコースト教育資料センターの協力によって行いました。杉原千畝の生い立ちのパネルや杉原千畝によって助けられた命が、今もつながって家族の写真などが飾られています。

【問い合わせ先】杉並区立中央図書館：03-3391-4800